

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 20人

② 算数 20人

5 留意事項

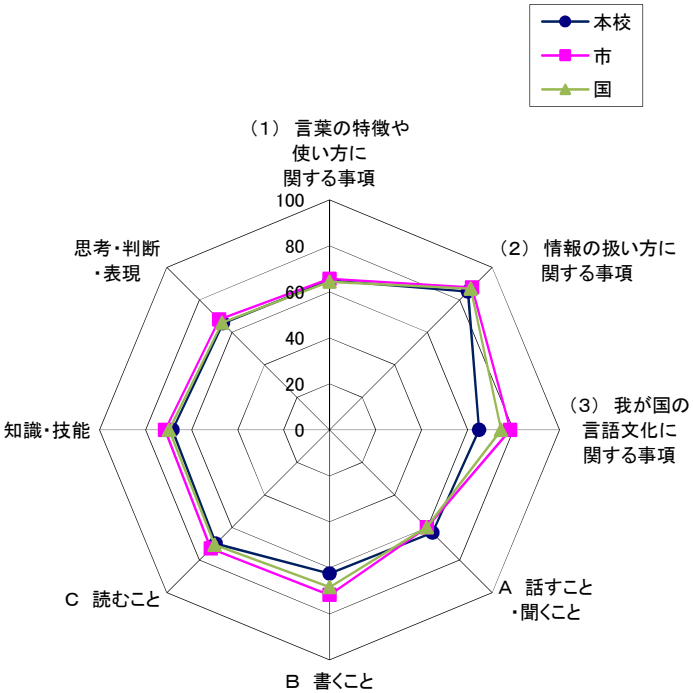
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立中央小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使いに関する事項	65.0	65.7	64.4
	(2) 情報の扱いに関する事項	85.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	65.0	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	63.3	59.9	59.8
	B 書くこと	62.5	71.8	68.4
	C 読むこと	70.0	72.9	70.7
観点	知識・技能	68.3	71.5	69.8
	思考・判断・表現	65.6	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

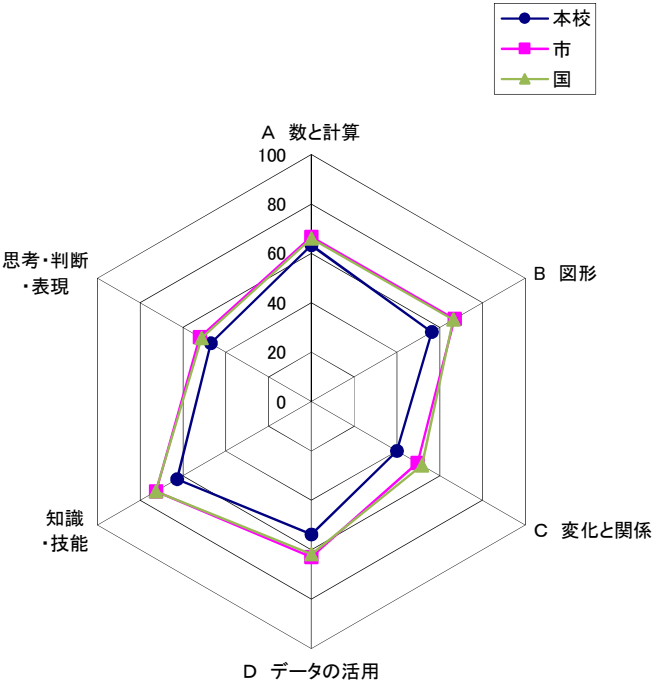
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使いに関する事項	○話し言葉と書き言葉との違いに関する問題では、正答率が全国平均を上回った。 ●漢字の書き取りでは、正答率が全国平均より8.4ポイント下回っており、無回答率は、35%の設問がある。 ●主語と述語の関係を捉える問題では、正答率が全国平均より7.3ポイント下回っている。	・朝の学習の時間などを活用し、漢字練習やミニテストを行うことで、漢字の習熟を図る。 ・既習の漢字については、無解答率が高い問題もあったので、宮っ子ステップアップテストやAIDドリル等を活用し、繰り返し学習することで定着を図っていきたい。
(2) 情報の扱いに関する事項	●情報の扱い方に関する問題では、正答率が全国平均を1.9ポイント下回った。	・授業等で様々な思考ツールを活用することで、児童が考えを図示することのよさに触れたり、思考をまとめたりすることができるよう指導していく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	●文章を読み、読書の効果について考える問題では、正答率が全国平均を9.6ポイント下回った。	・「図書ファイル」を活用し、読書活動を振り返る場面を設定する。
A 話すこと・聞くこと	○話すこと、聞くことに関する領域では、正答率が全国平均を3.5ポイント上回った。	・ペア学習やグループ学習を取り入れながら、それぞれの立場で考えを伝え合うなど言語活動の充実を図りつつ、自分の考えを伝える活動では、相手や目的、意図に合わせて伝え方を工夫しようとする力をつけていきたい。
B 書くこと	●書くことに関する領域では、正答率が全国平均を5.9ポイント下回った。	・文章を書く活動を、日常的に取り入れる。 ・書いた文章を自身で読み返したり、教師や友達と確認し合った場面を設定することで、文の構成について着目させ、何について書いているかをはっきりさせるよう指導していく。 ・文章を書く目的や意図を確認して伝えたいことを明確にしながら文章を書くことができるよう指導していききたい。
C 読むこと	○登場人物の相互関係や心情を、描写から考える問題では、正答率が全国平均を18.1ポイント上回った。 ●物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりする問題では、正答率が全国平均を17.6ポイント下回った。	・登場人物の気持ちを考えるときに、理由や根拠を明らかにして説明することで、心情や相互関係について描写からとらえられるように指導していく。 ・朝の全校一斉読書(週2回)や読書週間の実施、及び家庭での読書の奨励など、読書活動をさらに推進していく。

宇都宮市立中央小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.3	66.7	66.0
	B 図形	56.3	66.9	66.3
	C 測定			
	D 変化と関係	40.0	49.6	51.7
	E データの活用	53.8	62.9	61.8
観点	知識・技能	62.8	72.6	72.8
	思考・判断・表現	47.1	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○計算に関して成り立つ性質を活用して、かけ算の計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する問題では、全国正答率よりも3.1ポイント上回った。 ●除数が1/10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ問題では、全国正答率よりも9.1ポイント下回った。「数と計算」の中では、正答率が最も低かった。	・今後も継続して普段の授業の中で、自分の考えを式や言葉で表現する時間を設けるようにする。 ・除数が小数である場合の除法の仕方を身に付くよう、繰り返し練習問題に取り組み、習熟を図るようにする。
B 図形	○五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に注目して書く問題では、全国正答率よりも3ポイント上回った。 ●直径22センチのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く問題では、全国正答率よりも16.5ポイント下回った。「図形」の中では、正答率が最も低かった。	・今後も継続して自力解決の時間を確保し、自分の考えを式や言葉で表現できるようにする。また、ペア学習やグループ学習など授業形態を工夫することで、友達のよりよい考えを取り入れさらなる表現向上を推進する。 ・視覚的に理解できるように、実物を用いて授業を展開する。
C 変化と関係	●全体的にこの領域では、全国と比べて11.7ポイント下回った。特に、家から図書館までの自転車の速さが分速何メートルかを書く問題では、全国正答率よりも19.1ポイント低かった。	・速さ、時間、道のりの意味や関係性について理解できるよう、基礎的な問題に取り組みさせ、速さ、時間、道のりの求め方の習熟を図る。
D データの活用	●示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く問題では、全国正答率よりも23.3ポイント下回った。	・二次元表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類・整理できるよう、繰り返し練習問題に取り組みさせる。

宇都宮市立中央小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「将来の夢や目標を持っていますか」の肯定回答率は85%と県・国の割合を上回っている。自分の長所を理解し、将来に役立てることができるよう、今後も励まし応援していきたい。

○「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の肯定回答率は75%と県・国の肯定回答率を上回っている。学級ごとではなく、学校全体で引き続き、悩みを話しやすい雰囲気づくりに取り組んでいきたい。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「友達関係に満足していますか」など、学校での生活についての質問での肯定回答率が、90%、95%、95%と県・国をいずれも上回っている。授業では、小集団での学習を多く取り入れ、友達と学ぶ楽しさを味わうとともに、多様な考え方を認め、考えを広げ、さらなる学びへの意欲を高めたい。

●「毎日同じくらいの時刻に寝ている」「毎日同じくらいの時刻に起きている」「朝食を毎日食べていますか」などの生活についての肯定回答率がいずれも県や国を下回った。規則正しい生活をする意識の低下が考えられる。保健体育や家庭科などを通して、規則正しい生活リズムが健康に良いことを学んだり、家庭と連携して生活リズムの見直しに取り組んだり、基本的生活習慣を身に付けさせたい。

●「5年生までの学習の中でPCやタブレットなどのICT機器を活用することについて」に続く「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよくわかる」や「友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」の肯定回答率がどちらも100%と県・国よりも高かった。一方で、「楽しみながら学習を進めることができる」や「友達と協力しながら学習を進めることができる」の質問の肯定回答率が県・国よりも低かった。このことから、PCやタブレットなどのICT機器は学習には効果的ではあるが、児童にとっては楽しく学べていないという可能性もある。今後は、友達と話し合いながら学ぶ楽しさを感じられるよう、ツールとしてのICT機器の活用を再検討していきたい。

宇都宮市立中央小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習意欲を高める課題設定の工夫	児童が「知りたい」「解決したい」という探求的要求をもてるような「課題」の設定や提示の工夫をしている。	・「国語の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童は、65%で県や国の平均を少し上回っているが、「算数の勉強が好きか」という質問に肯定的回答をした児童は、県や国の平均を、5ポイント以上下回っている。
考えを広げ深めるための学び合い活動の工夫	対話的な学び合いのための活動の設定を工夫して、友達との考えの交流から自分の考えを広げたり、深めたりできるような指導を目指している。 学びの深まりを自覚する振り返り活動の工夫をしている。	・「学級の友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という質問の割合は、95%と県や国の平均を上回っている。 ・「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問に肯定的回答をした児童は80%と県や国の平均と同程度である。振り返りを次時の学習に生かしている児童が多いことがわかる。
基礎的な学習内容の定着のための取組	少人数指導や朝の学習支援、小テスト、AIDリルの活用などにより、学習内容の定着を図っている。	・算数の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、62.8%で県や国の平均を下回った。 ・国語の「知識・技能」の問題についての平均正答率は、68.3%で県や国の平均を下回った。
家庭学習の充実と習慣化のための指導の工夫	全学年「家庭学習マイプラン」による家庭学習の記録を行い、家庭での学習意欲を高めたり、自主的に学習に取り組む習慣をつけられるように指導している。 また、「家読」を行い、家庭での読書習慣の定着を目指している。	・「1日あたりどれくらいの時間勉強しているか」という問いに対して、1時間以上と回答した児童が55%で県の平均を下回っているが、国の平均とは同程度である。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・目的や意図に応じて自分の考えが伝わる文章の書き表し方を工夫する問題では、国や県の平均を下回っている。 ・算数の調査からも、自分の考えをもち、話し合いから考えを深めていく必要があると考えられる。	言語活動充実	・児童が自分の考えをしっかりとるよう、学習意欲を高める導入を行い、考える視点を工夫し、友達と学び合いながら、ねらいに沿って自分の力を高めていけるようにする。 ・教師が児童の学びをコーディネートしながら授業の展開をしていく。 ・課題解決に合わせて、実際に書く作業と、ICT機器を併用しながら、自分の考えがうまく伝わるようにしていく。

